

ENEOSスーパー耐久シリーズ2023 Powered by Hankook 第1戦 SUZUKA S耐

2023年3月18日(土)～3月19日(日)
鈴鹿サーキット(三重県)
入場者数: 3月18日 3,800人
3月19日 8,500人



開幕戦でまずは表彰台ゲット!
ST-Xでの2年目の進化を実感

FREE PRACTICE

TKRIにとって4年目となる、2023年のスーパー耐久シリーズへの挑戦が始まった。2022年にST-Xクラスにスイッチし、速さをみせるも初優勝には手が届かなかったが、今季目指すはもちろん表彰台の頂点。今季もDAISUKEと元嶋佑弥、中山友貴という抜群のチームワークを誇る3人がTKRI松永建設 AMG GT3のステアリングを握る。

チームは事前の公式テストには参加せず、鈴鹿サーキットのスポーツ走行を使って一度テスト。3月16日(木)の午後0時15分にスタートした特別スポーツ走行から鈴鹿の習熟に臨んだ。2022年の開幕戦となった鈴鹿では表彰台を獲得することができたものの、DAISUKEに

とって鈴鹿はまだまだ習熟が足りない自覚があった。この課題克服のために、小春日和の木曜走行から積極的に走行に取り組んだ。

明けて3月17日(金)は、曇り空のもとやや冷え込むなかで午前10時から占有走行がスタート。DAISUKE、元嶋と交代しながら周回を重ね、2番手につける。

さらに午後2時35分からスタートした全クラス混走の占有では、DAISUKE、元嶋、中山、そしてふたたびDAISUKEと交代しながら走行。こちらも2番手となった。2022年と比較すると、DAISUKEのタイムも大幅に向上しており、たしかな手ごたえを得て2日間の走行を締めくくった。



3月17日 スーパー耐久 専有走行 1 Gr.1 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	14	中升 ROOKIE AMG GT3	2'01.567
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'01.749
3	819	DAISHIN MPRacing GT-R GT3	2'01.883
4	500	5ZIGEN GTR GT3	2'02.002
5	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	2'02.464

3月17日 スーパー耐久 専有走行 Gr.1 + Gr.2 結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	2'01.878
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'03.068
3	14	中升 ROOKIE AMG GT3	2'03.883
4	819	DAISHIN MPRacing GT-R GT3	2'04.786
5	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'04.787

QUALIFY

2日間の占有走行は春の陽気だった鈴鹿だが、3月18日(土)の予選日は朝から雨模様。午前10時30分から行われたフリー走行はウエットで、TKRI 松永建設 AMG GT3は元嶋が5周だけ走行し、トップで終える。心配だったのは予選のコンディションだったが、スケジュールが変更されBドライバー予選から先に行われ、コンディションもこの間に好転した。

ここで元嶋は2分00秒402というタイム

を記録するも、同じ車両の#14メルセデスに0.326秒及ばず、元嶋にとっては悔しい予選。続くAドライバー予選でDAISUKEは2分05秒083を記録するも、「良いセッティングでしたが、ミスもありました」とこちらも少々悔しい予選に。合算で4番手というグリッドとなった。Cドライバー予選では中山が2分03秒412を記録。クルマ自体の感触は良く、チームは決勝に向けて手ごたえは得ていた。



3月18日 スーパー耐久 公式予選 A+B予選 ST-X 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Total Time
1	500	5ZIGEN GTR GT3	4'02.143
2	14	中升 ROOKIE AMG GT3	4'02.801
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	4'03.438
4	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	4'05.485
5	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	4'05.690

3月18日 スーパー耐久 公式予選 Cドライバー予選 ST-X 正式結果

Pos.	No.	Car Name	Best Time
1	31	DENSO LEXUS RC F GT3	2'03.141
2	819	DAISHIN MPRacing GT-R GT3	2'03.266
3	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	2'03.412
4	14	中升 ROOKIE AMG GT3	2'04.841
5	500	5ZIGEN GTR GT3	2'04.853

RACE



遠くに伊勢湾を見渡す快晴のもと迎えた決勝日。午前11時45分からの決勝のスタートは、この週末が始まる時点から、DAISUKEに決まっていた。昨年同様、混戦のなかで走り抜き、元嶋と中山のふたりで追い上げを期する作戦だ。

1周目、DAISUKEはひとつポジションを落とし5番手につける。翌周には#819 GT-Rにかわされひとつポジションを落としたが、それでもペースは悪くない。6周目を過ぎるとDAISUKEにとっての課題であるラップダウンをかわしながらの周回を強いられるが、序盤4番手につけていた#1 GT-Rがペナルティを受け後退するなど、トップ5圏内をキープ。19周を過ぎる頃になるとふたたび#1 GT-Rが追いついてくるが、これをうまくいなす走りを見せた。

今季、スーパー耐久の規定変更にとまぬ、DAISUKEは75分以上の走行をこなさなければならない。昨年よりも15分長く、ピットも「長いな……」と感じはじめていた。ただそんな中、

29周を過ぎるころ、エンジントラブルを起こした車両があり、オイル処理のためにフルコースイエローが導入され、さらにその後セーフティカーに切り替えられた。

ちょうどこのタイミングで、DAISUKEは規定周回を消化しきることができ、他車とともにピットイン。元嶋にステアリングを託した。ピットアウトした時点で、順位は5番手。先行してピット作業を行っていた首位の#31 RC Fとは1周差があり、タイム差は2分以上。元嶋と中山がこの差を削っていく作業がスタートした。

昨年も毎戦のように見られたとおり、鬼神のごとき追い上げをスタートさせた元嶋は、39周目にはラップダウンを戻し、どんどんタイムを削っていく。このステイントでトップに立った#500 GT-Rは非常にペースが速いが、58周目には#819 GT-Rのコースアウトに乗じ4番手。さらにライバルである#14メルセデスの差をどんどん縮めていった。

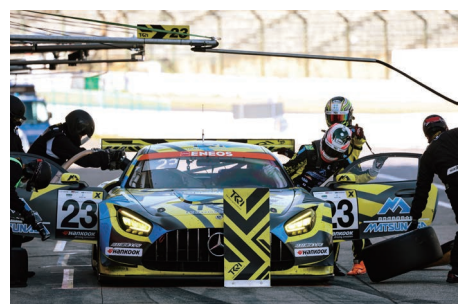
62周目、元嶋はついに#14メルセデスをオーバーテイク。さらに、トップを走っていた#31 RC Fの度重なるペナルティにも乗じ2番手で浮上。レースが2時間46分を過ぎた70周目、ピットインを行い中山に交代した。

中山も着実なペースで周回を重ね、トップの#500 GT-Rとのギャップを保っていたが、そんな中、レースが残り1時間30分が近づこうかというタイミングで、コースサイドにストッ

プ車両が続出。フルコースイエローが導入された後、セーフティカーに切り替えられ、ここでTKRI 松永建設 AMG GT3は再度ピットイン。ふたたび元嶋に最後の追い上げを託した。

ただ102周目、ST-5クラスのトップ争いのなかで130Rで激しいクラッシュが発生。コース上に車両、破片が散乱してしまった。元嶋はすぐ後方にいたが、グリーン上に逃れ事無きを得た。レースはすぐにフルコースイエローとなったが、すぐに赤旗中断。そのままレースは終了となってしまった。TKRI 松永建設 AMG GT3は2位でレースを終えることになった。

もし仮に赤旗中断とならず、セーフティカーとなっていた場合、トップの#500 GT-Rとのギャップを縮められる可能性もあった。また異なる戦略を採っていた場合、優勝も夢ではなかった。しかし、まずは優勝を争える実力をしっかりと示し、今シーズンの目標に定める優勝を射程に入れることになった。

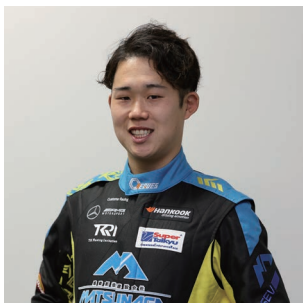


DRIVER'S VOICE



DAISUKE

決勝は元嶋選手の走りに尽きるのではないのでしょうか。素晴らしい追い上げをみせてくれましたし、2位表彰台はその追い上げがすべてですね。それにしても鈴鹿は本当に難しいコースですね。今回、レースでは最後は赤旗終了となってしまい、少し消化不良にはなりましたが、今年もそんな難しいコースで戦えることが分かりました。開幕戦で昨年に続く2位という結果を得られたのは、出だしとしては素晴らしいものでしたし、今年もみんなで表彰台のつぺんに立つ目標を持っているので、これからも練習して、良い結果が残せるように頑張っていきたいと思っています。



元嶋 佑弥 YUYA MOTOJIMA

スタートから DAISUKE 選手が安定した走りをみせてくれ、ノーミスで僕に繋げてくれたことが結果に繋がったと思っています。僕はいつもどおりプッシュするだけでしたし、レースの最終局面で中山選手がトップ争いができるお膳立てをしてくれました。最終スタントは自分も自信をもって臨んでいましたが、ここから……というタイミングで赤旗終了となってしまいました。ただ、まずはこうして優勝争いができる位置で戦うことができたことは、2年目の大きな成長だと感じていますし、今シーズンのこれからのレースが本当に楽しみです。



中山 友貴 YUUKI NAKAYAMA

チームで2年目の開幕戦でしたが、スタートから DAISUKE 選手がうまくファーストスタントを走りきってくれたと思います。そこから元嶋選手が追い上げてくれて、自分が途中を繋ぎ、タイヤのタレがあるので少し抑えながら走っていたのですが、トラフィックがかなり難しかったです。それでもタイヤを残していたのですが、セーフティカーが入り最後のプッシュができなかったのは残念でした。ただしっかりバトンを繋ぐことができました。赤旗終了は残念ですが、ドライバーさんが無事だったのは良かったですし、表彰台で開幕戦を終えられたのは良かったですね。

河野 高男 監督 TAKAO KOHNO

序盤から DAISUKE 選手が良いペースで走ってくれたと思います。ふだんは DAISUKE 選手をレースの最後に据えることが多かったのですが、クールスーツを DAISUKE 選手しか使わないので、今回はこれがいちばんスムーズにいく戦略だと判断してのことでした。とはいえどっちもどっちですからね。またセーフティカーでピットインを行うこともできましたが、他も同じ条件です。レース終盤は面白い展開にできましたが、元嶋選手、中山選手が頑張ってくれたおかげ。優勝のチャンスもあったかもしれませんが、2位は良い結果となったのではないのでしょうか。

3月19日 スーパー耐久第1戦 ST-X 決勝レース結果

Pos.	No.	Car Name	Laps	Total Time	Gap
1	500	5ZIGEN GTR GT3	103	4:12'54.902	
2	23	TKRI 松永建設 AMG GT3	103	4:13'16.315	21.413
3	31	DENSO LEXUS RC F GT3	102	4:12'58.202	1Lap
4	1	HELM MOTORSPORTS GTR GT3	102	4:13'02.200	1Lap
5	202	KCMG NSX GT3	102	4:13'53.548	1Lap
6	819	DAISHIN MPRacing GT-R GT3	93	4:13'44.460	10Laps
7	14	中升 ROOKIE AMG GT3	91	4:13'32.422	12Laps

